

より良い社会を勝ち取るには:大学の活用

✓実現すべきSociety5.0は、

インクルーシブ(包摂的)で多様性のある知識集約型社会。

安倍総理所信表明演説(2019.10 第200回国会)

「新しい時代の日本に求められるのは、**多様性**であります。…**多様性**を認め合い、**全ての人がその個性を活かすことができる**。そうした社会を創ることで、少子高齢化という大きな壁も、必ずや克服できるはずです。」

✓大学の**機能を拡張し、社会変革の原動力**にすべき。

「成長戦略実行計画」(2019.6 閣議決定)

「大学は、知識集約型社会における付加価値の源泉となる多様な知を有しており、**大学の役割を拡張し、変革の原動力として活用する**」

✓幸い国立大学は、戦後の「一府県一大学」原則で**すべての都道府県**に配置。

国立大学＝**公共財、先行投資、多様性**

戦後 75年にわたり全国津々浦々に整備してきた国立大学は、**インクルーシブな成長のための先行投資**だったと再定義すべき。

大学債発行の意義:「三方よし」

大学債の発行は、大学債というこれまでにない投資メニューを創出することで、**社会全体をより良くするための前向きな投資**をファイナンスする**仕組みを創**ることが目的。

- ✓ 公共財を税金だけで維持できない構造に陥っている中で、**公共財を支える新しい仕組みを大学が先導して実証。** ⇒「官」によし
- ✓ 大学債はESG投資、CSVの流れに合致。
大学が**巨額の滞留資産の受け皿**となる。 ⇒「民」によし
※家計の金融資産1831兆円(2018)、企業の内部留保446兆円(2018)
- ✓ 相当規模の資金を市場から調達することで、**税金を待たずに必要な先行投資が今できる。** ⇒「大学」によし

国は、国立大学法人制度の根本を見直し、「**官民挙げて社会全体で公共財である大学を支える**」という理念を掲げていただきたい。

また、高等教育の**どの部分は今後も責任を持って国が国費で支援するのか**を明確にしていきたい。